

建物耐震診断等概要書(鉄骨造)

(様式3-1)

1. 建物概要											
申込件名	1.耐震診断 <u>2.耐震診断補強計画</u> 3.適合判定 4.詳細補強設計 5.その他 ()										
申請者名(建築主)											
建物名、棟名、棟番号											
所在地	(〒 -)										
用途、面積(対象面積)	校舎・屋体・寄宿・その他 () m ² (m ²)										
建築年月、構造、階数	昭和 年 月 造 階建 塔屋 階 地下 階										
基礎、地盤条件	直接基礎 (地耐力 t / m ²), <u>杭基礎</u> 杭支持力 t / 本)										
構造上の特徴	平面	<u>ほぼ整形</u> ・ 不整形				立面	<u>ほぼ整形</u> ・ 不整形				
	構造形式	けた行き方向: プレース架構				はり間方向:	プレース架構				
	剛床仮定	けた行き方向: <u>成立</u> ・ 不成立				はり間方向:	成立 ・ <u>不成立</u>				
2-1. 診断方針											
診断法(計算法)	<u>2011年改訂版 耐震診断基準</u> 、屋体診断基準、応答解析、その他 (<u>手計算</u> 、電算機)										
電算ソフト(作成者)	Ver										
診断実施者(資格)	事務所名	()知事登録 第 号									
	氏名	一級建築士番号 第 号 耐震診断講習会修了番号									
連絡先住所	(〒 -)										
TEL / E-mail	TEL / E-mail										
診断実施年月	平成 年 月 ~ 平成 年 月										
材料調査	鉄骨(鉄筋)	規格	規格値	採用値	その他						
		鉄骨:柱	kg/cm ²	N/mm ²							
		鉄骨:梁	kg/cm ²	N/mm ²							
		主筋	kg/cm ²	N/mm ²							
		帯筋	kg/cm ²	N/mm ²							
コンクリート	kg/cm ²	N/mm ²									
2-2. 補強方針											
診断法(計算法)	<u>2011年改訂版 耐震診断基準</u> 、屋体診断基準、応答解析、その他 (<u>手計算</u> 、電算機)										
電算ソフト(作成者)	Ver										
診断実施者(資格)	事務所名	()知事登録 第 号									
	氏名	一級建築士番号 第 号 耐震診断講習会修了番号									
連絡先住所	(〒 -)										
TEL / E-mail	TEL / E-mail										
診断実施年月	令和 年 月 ~ 令和 年 月										
材料調査	鉄骨(鉄筋)	規格	規格値	採用値	その他						
		鉄骨:柱	kg/cm ²	N/mm ²							
		鉄骨:梁	kg/cm ²	N/mm ²							
		主筋	kg/cm ²	N/mm ²							
		帯筋	kg/cm ²	N/mm ²							
コンクリート	kg/cm ²	N/mm ²									
3. 診断結果											
		補強前	I ₅₀ = 0.6				q	≥ 1.0			
		補強後	I ₅₀ = 0.6				q	≥ 1.0			
		補強前				補強後				(調査・診断に関する所見)	
		F	Fes	I _s	q	F	Fes	I _s	q		
7F	X									X方向・Y方向とも、プレースは端部の接合部破断が先行し、耐力、靱性ともに小さい。プレース部材から作用する力に対して、軒梁の座屈、柱脚のせん断破壊が生じないことを確認した。	
	Y										
6F	X									建物形状は、平面的、立面的に整形で、形状係数Fesによる耐震性能の低減はない。以上により算出されるI _s 値は、X方向・Y方向とも判定値I ₅₀ =0.6を下回り、補強等の対策が必要と判断する。	
	Y										
5F	X									屋根面プレースは、Y方向加力時において、屋根の荷重を鉛直プレース構面まで伝達できないことが確認されたため、補強等の対策が必要である。	
	Y										
4F	X									コンクリートブロック壁の面外方向荷重に対する検討の結果、中央部の曲げモーメントに対して鉄筋の応力度が、短期許容応力度を上回る結果となったため、補強等の対策が必要であると判断する。またコンクリートブロック壁の面外方向荷重に対	
	Y										
3F	X										
	Y										
2F	X										
	Y										
1F	X	1.00	1.000	0.17	0.68	1.00	1.000	0.777	3.109		
	Y	1.00	1.000	0.19	0.64	1.00	1.000	0.718	2.871		
最小値	X			0.17	0.68			0.777	3.109		
	Y			0.19	0.64			0.718	2.871		
備考											

3. 診断結果		補強前		補強後		I _{SO} = 0.6		q ≧ 1.0		
		補強後		I _{SO} = 0.6		q ≧ 1.0		q ≧ 1.0		
		補強前				補強後				(調査・診断に関する所見)
		F	Fes	I _s	q	F	Fes	I _s	q	
7F	X									
	Y									
6F	X									
	Y									
5F	X									
	Y									
4F	X									
	Y									
3F	X									
	Y									
2F	X									
	Y									
1F	X									
	Y									
最小値	X									
	Y									
備考										

4. 補強計画									
補強方法	7F	6F	5F	4F	3F	2F	1F	合計	(補強に関する所見)
柱補強									
梁補強									
水平ブレース増設									
鉛直ブレース増設									
鉛直ブレース補強									
間柱増設									
間柱補強									
つなぎ梁増設									
方杖補強									
基礎補強									
荷重軽減									